

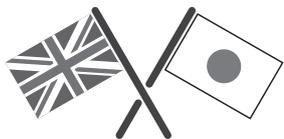
復興が生んだ、 英国との絆

平成27年2月にウィリアム王子が来訪されて以来深まった英国との絆。

王子が訪れたスマイルキッズパークはプリンス・ウィリアムズ・パークの愛称で親しまれています。

7月にはロンドン・ケンジントン&チェルシー王立区の『福島庭園』と本宮市の『英国庭園』とが姉妹庭園の覚書を取り交わし、さらなる交流が期待されます。

本宮と英国がつながったとき



「ウィリアム王子と

福島・英国両庭園」

本宮市と英国とのつながりが生まれたのは、平成27年2月。ウィリアム王子が初来日し、本宮市の『スマイルキッズパーク』を訪れたのがきっかけでした。スマイルキッズパークは、原発事故後、屋外での活動が制限され運動不足や肥満になりがちだった子どもたちに、安全に思い切り遊んでもらおうと整備されました。王子は、施設で子どもたちと一緒にボールを投げ合って遊び、交流されました。また、原発事故が落ち着いたあと整備された屋外あそび場では、子どもたちと一緒に、イングリッシュオークを植樹されました。

その後、スマイルキッズパークは愛称『プリンス・ウィリアムズ・パーク』として、平成27年8月に再オープンし、現在まで30万人以上が訪れています。そうした中で、さらに英国との絆を深めるできごとが『英国庭園』の整備でした。ロンドン・ケンジントン&チェルシー王立区のホーランドパークには福島の復興を願った「福島庭園」があり、その3周年記念式典で王

立区長から「福島に英国庭園」との提案がありました。

ウィリアム王子が訪問し植樹されたご縁からプリンス・ウィリアムズ・パークの敷地の一部を利用し、英国庭園を整備することとなりました。庭園は11月に開園するほか、それに先立ち7月には英国を訪問し、福島庭園と英国庭園の間で姉妹庭園の覚書を取り交わします。

また、王立区などとのつながりを通して、国内外へ市の魅力を発信するとともに、国際性豊かな人材の育成など今後の交流が期待されます。



11月完成予定の英国庭園



英国庭園建設地を視察した福島庭園元園長のパリー・マクローリンさん



子どもたちと植樹をした王子



屋内あそび場を訪問し、子どもたちと交流したウィリアム王子



Prince William's Park

プリンス・ウィリアムズ・パーク





結団式で英国訪問へ向けて決意を新たにした団長の高松市長（前列中央）と団員の皆さん



英国訪問団45人がロンドンへ 「英国との 友好を誓う」

本宮市の国際交流事業として、7月18日から22日の日程で英国ロンドンを訪問する

「未来へつなげるもとみや英国訪問団」の結団式が、7月4日、市役所で行われました。団長の高松市長、市内中学生代表、もとみや青年会議所、市民ら団員45人が参加しました。

高松市長は、「ロンドンと本宮が心のこもった庭園で絆を結ぶことをうれしく思う」とあいさつ。東日本大震災の復興支援に対する感謝の気持ちを伝えると述べました。副団長の渡辺議長、原瀬教育長からも挨拶があり、そ

の後、訪問団員の紹介がありました。

団員には公式行事で着用する法被とバッジが手渡されました。式の最後には佐久間悠斗さん（本宮二中3年）が「本宮市と英国の架け橋となるようがんばりたい」と決意を語りました。

訪問団は7月18日に羽田空港を出発、19日に在英日本国大使館を訪問します。20日は、ケンジントン&チェルシー王立区の福島庭園と、今年の秋に完成予定である本宮市の英国庭園との姉妹庭園覚書締結を行います。



参加の決意を語った佐久間さん



公式行事で着用する法被



高層火災の犠牲者に哀悼の意を示しながら現場近くの教会で献花する訪問団。締結式の様子など詳しくは広報もとみや9月号でお知らせします

私たち一人一人にできることを

英国ロンドンで発生した高層住宅火災を受け、市では被災者支援のための募金箱を設置しました。

募金箱は、市役所、白沢総合支所、中央公民館、白沢公民館、えぼか、プリンス・ウィリアムズ・パークの6カ所に設置されています。被災者への哀悼と王立区への支援のため、市民の皆さんのご協力をお願いします。

